

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

# 9

SEPTEMBER  
2010

## CONTENTS

小菅 優 ピアノ・リサイタル	1~2
SELF PORTRAIT あひる会合唱団	2
最近の公演から	3
インフォメーション	4



写真:小菅 優 ©Steffen Janicke

## シリーズ「ショパンとシューマン 夢と憧れの軌跡」第2弾には小菅 優が登場!

### ● 9/11(土) 小菅 優 ピアノ・リサイタル

昨年3月のATMアンサンブルとの共演(ドヴォルジャーク:ピアノ五重奏曲ほか)、4月の小澤征爾指揮・水戸室内管弦楽団との共演(メンデルスゾーン:ピアノ協奏曲第1番)で、クラシック音楽演奏の若々しい息吹を水戸に届けてくれたピアニスト、小菅優さんがこの秋、水戸芸術館に戻ってきます。今回は、ショパンとシューマンの生誕200年を記念した水戸芸術館特別プログラムによるリサイタルです。

ヨーロッパと日本を頻りに行き来して、ますます精力的な演奏活動を行っている小菅優さんに、Eメール・インタビューを実施しました。《関根》

——水戸芸術館でのリサイタルに向けてお気持ちをお聞かせください。

小菅:今回、このリサイタルだけのために特別にプログラムを組みました。とても気合が入っています!

——過去のご出演やレコーディング等で水戸芸術館のホールやお客様の印象は如何でしたか?

小菅:水戸芸術館はホールの形も音響もとても室内乐的で、アットホームな雰囲気とのびのびとした空間、両方の持ち味がバランスよく備わっており、お客様も音楽を心から楽しみにして頂いていると感じます。

——今年はショパンとシューマンの生誕200年を記念する年です。小菅さんにとって二人はそれぞれどのような作曲家ですか?

小菅:私にとってシューマンとショパンはどちらも生誕200年だからとりあげるレパトリーでなく、いつでも身近にいる作曲家の二人ですが、お互い交流があったことが曲にもしばしば見えます。たとえばシューマンの《謝肉祭》には“ショパン”という曲が入っていますし、ショパンの《バラード第2番》はシューマンのために書かれています。

もちろん、故郷の違いもあり、シューマンの音楽にはドイツ語、ショパンの音楽にはポーランド語やフランス語が聴こえてくるように感じます。シューマンは交響曲や室内楽も書いていますが、ショパンはピアノ曲以外のジャンルには数少ない作品しか残していません。両方ともピアニストでもありましたが、シューマンの方がオーケストラ的、ショパンはほぼピアノの特徴を強調した曲が多いと思います。しかし、両方ともバロック、クラシック(古典派)の要素が曲に見られ、バッハ、ベートーヴェンやモーツァルトをよく研究した結果、このような音楽が生まれたということが、ハーモニーや形式などから見えてきます。また、幻想的であり、自ら執筆活動も積極的にしていた文学的なシューマンに対して、ショパンは祖国への訴えや革命的な思いが詩的に反映されていることが多いです。

——リサイタルでは、大変魅力的なプログラムが組まれました。それぞれの曲は小菅さんにとってどのような作品でしょうか?

小菅:このプログラムは、私のこの二人の作曲家の最も好きな曲から成り立っておりますが、《バラード》(ラテン語ballare=踊る)にも《ダヴィッド同盟舞曲集》にもダンスの要素が含まれています。ショパンの《バラード》は、とても円熟した曲なので、理解するのにとても時間がかかる曲だと思います。全曲通して弾くのは私の新たな挑戦ですが、練習していてもショパンの素晴らしいハーモニーの響き一つ一つに感動してしまい、この曲を弾かせていただけるということが嬉しくなりません。

《第1番》はシューマンが最も好きだった曲だと書いていますし、《第2番》はシューマンの《クライスレリアーナ》のショパンへの贈呈のお返しにシューマンに献呈していますし、この辺の交流も興味深いところだと思います。《第4番》は祖国への思いを素直に語るショパンの気持ちが少しでも表せたらと願っております。

シューマンの《アレグロ》は彼が21歳のときの曲ですが、当時から不評であまり弾かれていません。私は自分が17歳のときに気に入って一度弾きました。10年経った今また弾きなおしてみますと、もっとこの曲の魅力がわかり、また演奏するのが楽しみでなりません。未来に向かってとても肯定的に突き進んでいるようなところがすごく好

きです。

〈ダヴィッド同盟舞曲集〉は、シューマン独自のフロレスタンとオイゼビウスの二人の対照的なキャラクター、その二人の微妙な会話、混ざり合いが私にとってとても魅力的で、その繊細さ、皮肉やユーモアをたっぷりあらわせば嬉しそうです。

——新たに結成された専属楽団「新ダヴィッド同盟」について一言お願いします。

小菅：私のとても尊敬するアーティストの庄司紗矢香さんに声をかけていただき感謝です。水戸は室内管弦楽団との共演や、録音などですっかり私のふるさとなりましたが、水戸芸術館のような音楽・芸術をととても大事にくださるホールに、素晴らしいアーティストの皆様と毎年戻って

こられるというのはとても光栄なことです。楽しみでなりません。

——最後に、水戸のお客様に向けてメッセージを!

小菅：お客さまと共にこのピアノ曲の傑作を味わうことを心より楽しみにしています。

(2010年7月23日、Eメール・インタビュー)

## 担当者が選ぶ「小菅 優を聴くこの3枚」



### ■ リスト：ヴェネツィアとナポリ

シューマン：幻想曲、アレグロ 作品8

(ソニークラシカル SICC 755)

インタビューでも触れられている、小菅優17歳の時のシューマン〈アレグロ〉を収録。隠れた名作にとびきり新鮮な光をあて、曲の魅力をよみがえらせました。リストのヴィルトゥオジティ、シューマン〈幻想曲〉の深みのある表現にも魅されます。(録音：2000年8月)



### ■ ファンタジー

(ソニークラシカル SICC 679)

バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、ラフマニノフなど様々な作曲家による〈幻想曲〉を1枚に集めたCD。一見、小菅優の“芸”を堪能すべきアルバムに見えますが、さにあらず。それぞれの作曲家に献身的な姿勢で臨む小菅優の演奏は、聴く者の襟を正させるのです。(録音：2006年4月)



### ■ メンデルスゾーン：ピアノ協奏曲第1番 他

(ソニークラシカル SICC 10084)

小澤征爾指揮・水戸室内管弦楽団との共演による協奏曲は、昨年4月のライブ収録。優秀な録音である感動がよみがえります。その他、〈無言歌集〉(抜粋)や〈厳格な変奏曲〉などソロ曲も多数収録。ショパン、シューマンの1年先輩にあたるメンデルスゾーンへの小菅優の共感が、深い感動を呼ぶ一枚です。(録音：2009年4月、7月)

## SELF

### 創立60周年・鈴木良朝氏指揮活動55年記念

## ■ 9/26(日) あひる会合唱団 第49回定期演奏会

### 60年の軌跡を素直に喜びたい

昭和26年、第二次世界大戦後まもなく、水戸市民合唱団が誕生しました。折しも全国中「うたごえ運動」が隆盛を迎える最中、その一派と間違えられた私たちは、昭和28年から「あひる会」と改称して再出発しました。純粋に音楽の喜びを分かち合う活動の難しさを知った時期でもありました。現在でも、時折イデオロギーの風に、周囲を見回すこともあります。

さて私が大学を出て、幸いにも水戸二中に就

職したのが、「あひる会合唱団」の指揮者としてのスタートでした。爾来、55年も永い時間、その座を保つとは思いませんでした。その間の事情はとても語ることはできませんが、学生時代から折りにふれ関わった県合唱連盟との関係が毎年続いて、現在でも車の両輪のように、私の生涯の中で大きな比重を占めているのも事実です。また、水戸芸術館が創設されて以来、数々のコンサートや芸術館広場での〈交響曲第9番〉(ベートーヴェン)の指揮で、多くの人々と知己となり、音楽で心と心をつなぐ素晴らしい世界を再認識することができ、大きな喜びにあふれています。

今回の「あひる会合唱団60周年記念演奏会」の概要について述べてみます。

第1ステージはスペインのルネッサンス音楽を代表するビクトリアの宗教曲です。ポリフォニー(多声の音楽)によって、優雅な曲趣を表出する楽曲に仕上げられている名曲で、モテット〈おお、大いなる神秘〉に続いて、そのパロディミサ曲(主題等を模倣した曲)から、「キリエ」、「グロリア」を

演奏します。この曲ははからずも平成4年、仙台市で行われた全日本合唱コンクールで銀賞を得た自由曲です。

第2ステージは、指揮者が打越氏に変わりました。〈ひたすらに雨情〉を演奏します。野口雨情と言えば、〈しゃぼんだま〉、〈七つの子〉で代表されますように、童謡詩人とうたわれておりますが、実は〈船頭小唄〉のように、大人向きの詩をたくさん書いています。今回はそれらの曲を池辺晋一郎氏の編曲でお贈りいたします。

第3ステージはグノー作曲〈聖チェチリアの荘厳ミサ〉に移ります。グノーはオペラ〈ファウスト〉で著名な作曲家ですが、実はレクイエムやミサ曲など、優れた宗教曲を作曲しておりまして、宗教曲作曲家としての面に躍如たるものがあります。しかし、オペラ作曲家とも言われておりますように、次から次へと美しいメロディに彩られる荘重な楽曲の構築にその片鱗が伺えます。

あひる会合唱団指揮者 鈴木良朝

## 最近の公演から

MAY  
JUNE



1



2



3



4



5



6



7



8

### 中村紘子デビュー50周年記念リサイタル (5月15日)

満場の聴衆をお迎えしたこの日のリサイタル。プログラムは〈ボロネーズ 第3番“軍隊”〉、〈24の前奏曲 作品28〉などのオール・ショパン作品で、今年度の水戸芸術館音楽部門のショパンとシューマンに焦点を当てる演奏会シリーズ「ショパンとシューマン 夢と憧れの軌跡」の第1回公演として開催した。

中村紘子さんの今日を築いた最も重要なレパートリーであるショパン作品の演奏を経て、この日のリサイタルでとりわけ印象深かったのは、6曲にもわたるアンコール演奏後のお客様の熱狂ぶりだ。おそらくこの日のホールには、中村さんの演奏に親しみを持ち続けながら人生を歩んできた方が大勢いらっしまったのではと思われ、そうした方々にとっては目の前の演奏ばかりではなく、これまでの中村さんの演奏に対する万感の想いというのが作用して、大きな拍手となっているのだろうと思った。現前性を越えて、自身の人生を振り返りつつ、過去の記憶を呼び覚ますような演奏家や音楽との付き合いというものに在り方に、触れる演奏会であった。アンコール曲は次の通り。グルック〈精霊の踊り〉、ショパン〈ワルツ 第2番 作品34の1〉、ラフマニノフ〈鐘〉、グラナドス〈アンダルーサ〉、ショパン〈幻想即興曲 作品66〉、ブラームス〈ハンガリー舞曲 第1番〉。《中村》

アンケートから●ショパン生誕200年という記念すべき年に中村紘子さんの演奏を聴くことができ、感激で、この上ない幸せを感じます。(鹿嶋市: H.I.さん) ●本当に感激しました。涙が出ました。6曲ものアンコール! 大ファンです(昔からです)。またいらして下さい。本当にまたいらして下さい。(無記名の方) ●気品のあるお姿、今まで積み重ねてきた音楽人生すべてが美しく、すばらしい演奏でした。アンコールをあんなに弾いていただいて感激でした。(水戸市: Kさん)

### 「茨城の名手・名歌手たち 第21回」

#### 出演者オーディション(6月13日)

若き音楽家たちの登竜門として注目を集めている「茨城の名手・名歌手たち」。11月27日[土]に開催する第21回演奏会に先立ち、出演者オーディションが行われました。今回の対象は、「鍵盤楽器、弦楽器、邦楽アンサンブル」で、合計39名の申込みがありました。厳正な審査の末、見事以下の9名が選ばれ、今秋のステージに登場します。フレッシュな名手たちの熱演に乞うご期待!《高巣》

### 「茨城の名手・名歌手たち 第21回」

2010年11月27日[土]18:00開演

【司会】小林仁(オーディション審査委員)

【出演(受験番号順)】

石原麻衣(バイプオルガン)

忠 紗友里、澤田尚美、掛札佳奈、小澤叶恵、藤原百子、須田茉莉(以上、ピアノ)

茂木立真紀、石坂淑恵(以上ヴァイオリン)

◎応募総数 39(鍵盤楽器34/弦楽器5)

◎審査委員(敬称略・五十音順)

岩井宏之、加藤知子、小林仁、小林由佳、畑中良輔(審査委員長)

### リゲティの肖像(6月20日)

第二次世界大戦後に活躍する作曲家を取り上げる「現代作曲家の肖像」シリーズの第4回目となる公演。今回はハンガリーに生まれ、ウィーンに没したジェルジ・リゲティの創作の軌跡を追った。まずプレ演奏①として、エントランスホールでパイプオルガンの演奏を行った。最後に演奏した〈ヴォルミーナ〉では、クラスター(音塊)の圧倒的な音響が、ホール内に轟いた。演奏は近藤 岳さん。プレ演奏②では、100台のメトロノームのための〈ボエム・サンフォニック〉を上演。この演奏のための100台のメトロノームは、水戸市教育委員会にご協力いただき、水戸市内の小・中学校などからお借りした。演奏にあたっては、ピアニストの小坂圭太さんと中川賢一さんがディレクションを務めた。いくつかのメトロノームが偶然重なり合い、特定のリズム・パターンが浮かび上がる瞬間が、とても面白い作品だ。

メインの演奏会では、アルディッティ弦楽四重奏団が2つの弦楽四重奏曲を披露した。ピアノ曲を演奏したのは、小坂圭太さんと中川賢一さん。2人とも、演奏会の3日前から水戸入りして、連日朝早くから深夜にわたって、徹底したリハーサルが行われた。プログラムの最後を飾ったのは東京混声合唱団による16声部からなる無伴奏合唱曲〈ルクス・エテルナ〉。自身の前半生で翻弄された国や民族を越えるような音楽を、リゲティは志向したのだと思う。その結果、彼の音楽はコズミックなスケールを持つに至ったのではないだろうか。《中村》

アンケートから●最後に〈ルクス・エテルナ〉をもってきて、大正解だと思った。超絶技巧の弦と鍵盤作品だったが、それを越えたものを人間の声に感じた。生で聞けて本当に良かった。素晴らしい!(鉾田市: 無記名の方) ●すばらしかったです。現代音楽の見方が変わりました。これからもこういう企画をお願いします!!(無記名の方) ●考え方が変わりました。演奏もとても独創的で、このような方法もあったのか!!と驚きの連続でした。2台ピアノの息のあった演奏はとても感動しました。(無記名の方)

1~2.中村紘子デビュー50周年記念リサイタル

3~6.リゲティの肖像

7~8.「茨城の名手・名歌手たち 第21回」出演者オーディション

## information

- チケットに関するお問い合わせ  
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000  
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ  
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

## チケット・インフォメーション

### 〈9月4日(土)発売分〉

- ◎平松英子(ソプラノ) & 野平一郎(ピアノ) シューマン歌曲のタベ  
11/6(土) 18:30開演 料金(全席指定): ¥3,500
- ◎ちょっとお昼にクラシック  
波多野睦美(メゾソプラノ) & つのだたかし(リュート)  
～香り高きイギリス・リュートソングの世界～  
11/16(火) 13:30開演  
料金(全席指定) ¥1,200(1ドリンク付き)
- ◎井上修 ピアノ・リサイタル  
11/21(日) 15:00開演  
料金(全席自由): 一般 ¥3,000、学生(大学生以下) ¥1,500
- ◎コール・ヴィステリー  
11/22(月) 19:00開演 料金(全席自由): 一般 ¥1,000
- ◎水戸芸術館・新専属楽団「新ダヴィッド同盟」第1回演奏会  
12/22(水) 18:30開演  
料金(全席指定) A席 ¥5,000 B席 ¥4,000

## これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右・裏…左右ブロックおよびステージ裏  
補助…補助席

- ◎小菅 優 ピアノ・リサイタル …… 9/11(土) 中央×、左右・裏○
- ◎あひるの会合唱団 …… 9/26(日) 自由席○
- ◎ぐるっぺ・ローゼン …… 10/2(土) 自由席○
- ◎水戸室内管弦楽団  
第80回定期演奏会 …… 10/9(土) 中央×、左右・裏○  
10(日) 中央○、左右・裏○
- ◎アンサンブル奏 …… 10/24(日) 自由席○
- ◎東京芸術大学音楽学部同声会  
茨城支部 …… 10/31(日) 自由席○

※8/3(火)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な9月のスケジュール

### コンサートホールATM

- 小菅優ピアノリサイタル  
9/11(日) 18:30開演 料金(全席指定): ¥3,500
- 第43回水戸市芸術祭  
□創立50周年 茨城交響楽団水戸芸術館公演  
9/19(日) 14:00開演 料金(全席自由) ¥1,500
- 元気みと創出 芸術文化活性化事業2010 世界遺産登録推進コンサート  
宗次郎 オカリナ・コンサート  
9/20(月・祝) 14:00開演  
料金(全席指定): ¥3,000 学生(大学生以下) ¥1,000
- あひるの会合唱団  
9/26(日) 14:00開演、料金(全席自由): 一般 ¥1,500 高校生以下 ¥700

## エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート  
9月: 4日(土)、12日(日)、25日(土)  
10月: 3日(日)、16日(土)、23日(土)、30日(土)  
11月: 20日(土)  
開演時間: 12:00 / 13:30(2回公演) ※9/25のみ 12:00 / 13:00  
入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

## ACM劇場

- 第14回水戸短編映画祭  
□9/18(土) 序章「桜田門外ノ変」 13:00～  
「乱暴と待機」プレミア上映 14:40～
- 9/19(日) ユーキャン 新たな一歩を「フミダス」キャンペーン 13:00～  
「シティボーイズのFilm noir」2010 15:00～  
料金(全席自由): 入替制 ¥1,000
- 9/20(月・祝) ノミネート作品上映&審査結果発表・授賞式 12:00～  
料金(全席自由): ¥1,200
- PARCO Presents『ハーバー・リーガン』  
9/29(水) 19:00開演  
料金(全席指定): S席 ¥6,500 A席 ¥6,000 B席 ¥4,500

## 現代美術センター

- 新次元—マンガ表現の現在  
8/14(土)～9/26(日) 9:30～18:00 ※入場は17:30まで  
休館日: 月曜日 ※9/20(月・祝)は開館、翌9/21(火)休館  
入場料: 一般800円、団体(20名以上)600円  
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

## 茨城の主な9月の演奏会 ※有料公演のみ

- ◆佐川文庫 TEL/029(309)5020  
■尾崎未空 ピアノ・リサイタル 9/25(土) 18:00開演
- ◆ギター文化館 TEL/0299(46)2457  
■村治奏一 ギター・リサイタル 9/12(日) 15:00開演  
■ミドル・トラバガ ギター・リサイタル 9/23(木・祝) 15:00開演
- ◆ノバホール TEL/029(852)5811  
■ウィーンの森Bühneバーデン市劇場「ラ・ボエム」9/25(土) 14:00開演  
■サンリオファミリークラシック「リボンの国の音楽会」9/26(日) 13:00開演



### 『高橋悠治の肖像』 CD発売のお知らせ

昨年7月に開催した『高橋悠治の肖像』公演に際して収録された同名タイトルのCD

(ACCL-25452)が、このたび、AVEX-CLASSICSからリリースされました。この演奏会は高橋悠治氏自身が企画・構成・出演したもので、この日集まってくださった聴衆の皆様からは感銘の声が次々と寄せられ、大きな反響を呼びました。

洋の東西を超えた新しい次元に足を踏み入れるべく探究と模索を行い、真に音楽の根源を見つめようとしている、わが国の作曲家・高橋悠治氏の作品を、どうぞこのCDでもお楽しみいただければと思います。

### 水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2010年8月発行 第150号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順): 伊東慶子 大金絢子 関根哲也 高巢真樹 中村晃

DTP/村田征司[株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…

MCOのステージに、宮本さん復活!!